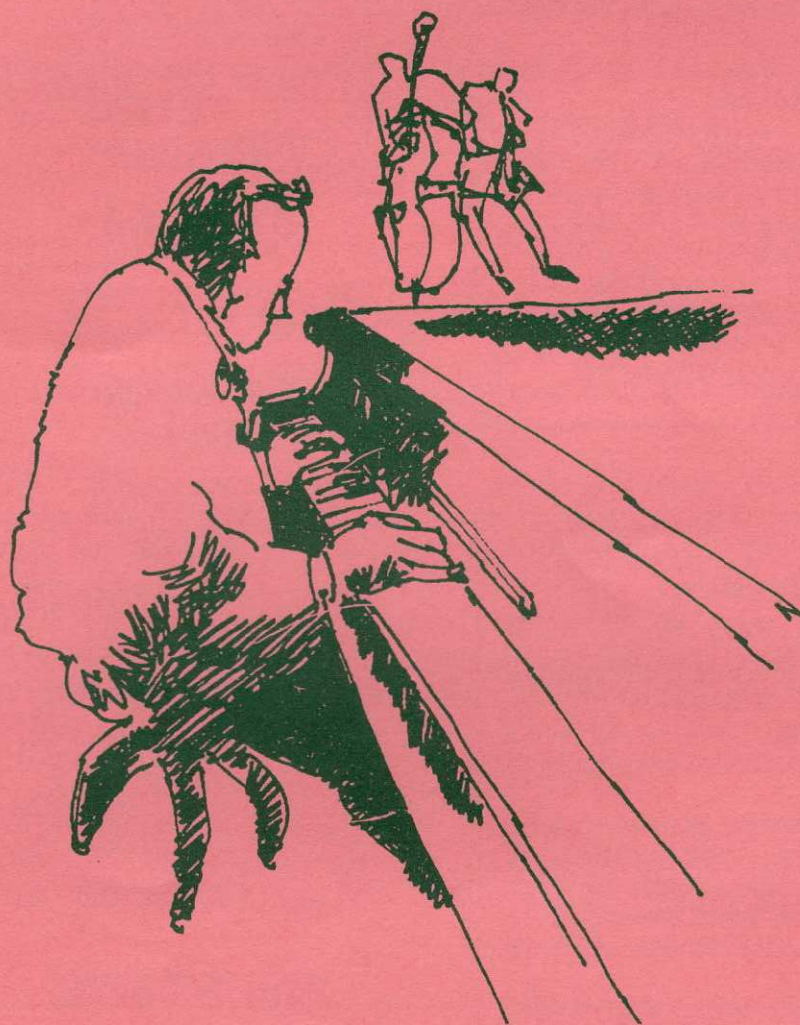


✦ TOKAI CLOVER CLUB HEARTBEAT CONCERT 3

◆同志社グリークラブ創立90周年記念

東海クローバークラブ・ハートビート・コンサート3

高鳴ル調べニ何時カ、心ノ悩ミモ解ケテ...



平成6年5月15日(日)

名古屋市芸術創造センターホール

主催／東海クローバークラブ

共催／早稲田・慶応・関西学院・同志社(東西四大学)OB合唱連盟

後援／同志社校友会愛知支部

第 1 部

ごあいさつ

東海クローバークラブ

幹事長 近藤 恭 司

本日は東海クローバークラブ・ハートビート・コンサート 3 へご来場賜り誠にありがとうございます。早いもので、一昨年の10周年記念コンサートから1年半が経過しました。今回は、前回一緒させていただいた、早稲田、慶応のOBのみなさまに加え、新たに関西学院グリーンクラブOBのみなさまにもステージに上がっていただくことといたしました。これで「東西四連」が勢揃いしたわけです。もうほとんど「東西四大学OB名古屋演奏会」と呼んでもよいのではないかと思います。

卒業して 1、2 年のOBから40年、50年と経過したOBまで、このステージに上がることを楽しみにしているのは、それが私たちが青春の真只中へと運んでくれるからです。

サミュエル・ウルマンの「青春」という詩に、
青春とは人生のある期間ではなく、
心の持ち方を言う。

年齢を重ねただけで人は老いない。

理想を失うとき初めて老いる。

と、あるように私たちも音楽を通じて一生「青春」であり続けたいと思います。ご来場のみなさまもどうぞそ今年度青春に戻られてはいかがでしょうか。このコンサート会場がおよそステージのメンバーの風貌からは想像できないような若々しいハーモニーで満たされ、みなさまの心に青春の二文字を刻んでいただければ幸いです。

MESSAGE

同志社校友会愛知支部

支部長 高岡 茂次郎

毎秋恒例となりました同志社校友会愛知支部総会はこのところ、東海クローバークラブによるオープニングカレッジソングがすっかり定着し、クローバーのコーラスがなくてはパーティが始まらないとさえ思えるようになりました。

本日は第3回目の演奏会の開催、誠におめでとうございます。聞くところによれば、この演奏会のためにはるばる東京や関西からも交友の皆さんが応援に駆け付けてくださるとのこと、その結束の強さに敬意を表したいと思います。そして改めて、これが同志社なんだと感じさせられます。

5月の演奏会ということで、おそらく年末や年度末の多忙な時を過ごしてこられ、十分な練習を積むことができなかった方もいらっしゃることでしょう。しかし、それでもよいのです。このようなホールで多くの聴衆を前にして歌うことができるということ自体すばらしいことであり、うらやましく思います。

東海クローバークラブのますますのご発展と本日の演奏会のご成功をお祈り申し上げます。

 CLOVER CLUB

OPENING

詩篇 102 番

1st STAGE

男声合唱組曲

「東京景物詩」

あらせいとう

カステラ

八月のあひびき

初秋の夜

冬の夜の物語

夜ふる雪

作詩 北原白秋

作曲 多田武彦

指揮 稲熊裕之

2nd STAGE

「アメリカの旅を終えて」

最上川舟唄

音戸の舟唄

そうらん節

おてもやん

Ride The Chariot

Soon'Ah Will Be Done

Rolling Home

指揮 稲熊裕之

司会 朝比久雄

第2部



東西四大学OB合唱連盟

MESSAGE

名古屋稲門グリークラブ

会長 高橋 克

今年もクローバーさんのステージに出演ということで、大変名誉なことと我々なりに年明けからここを目指してきた。難しいことはさておいて、第3ステージ「三つの抒情」三善晃の名曲に取組み改めて合唱の奥行き深さ(難しさ)を痛感した。日頃、「昂」を少しはそれらしくガナリ、「銀・恋」をソフトにデュエットして大満足のおジサンには厳しい修業の日々であった。最後のステージは楽しい。「女！オンナ！女」では過ぎた若き日の経験に裏付けされて自信あふれる演奏となる筈、乞うご期待。

高鳴る調べに何時か、心の悩みも解けて……

明日よりまたいっばしの企業戦士だ

OPENING

司会 朝比久雄

3rd STAGE

男声合唱とピアノのための
「三つの抒情」

或る風に寄せて

北の海

ふるさとの夜に寄す

作詩 立原 道造・中原 中也

作曲 三善 晃

編曲 福永 陽一郎

指揮 向川原 慎一

ピアノ 三ッ口 朱野

4th STAGE

「ウィーンのしらべ、ウィーンのかおり。」

トリッチ・トラッチ・ポルカ J.シュトラウス 作曲
楠 敏也 訳詞

オペレッタ「メリーウイドウ」セレクション

第1幕への序奏～ハンナの登場(*) F.レハール 作曲

第2幕への序奏～ヴァリアの歌(**) 野上 彰 訳詞

女・おんな・女(**)

ラデッキー行進曲 J.シュトラウスI世 作曲
楠 敏也 訳詞

合唱編曲 北村 協一(*)・福永陽一郎(**)ほか

伴奏編曲 稲熊 裕之

ソプラノ独唱 橋爪 圭子

ストリングス ハートビート四重奏団

1st Vn. 小尾 佳正 2nd Vn. 中西 俊哉

Va. 小林伊津子 Va. 増岡 祐子

ピアノ 鬼頭久美子

振付・舞踊 豊田公子ジャズダンスカンパニー

指揮 稲熊 裕之

MESSAGE

慶応ワグネル東海三田会

会長 柴田 道昭

東海クローバークラブの3回目の演奏会の開催を心からお喜び申し上げます。

一昨年の創立10周年記念演奏会では、ワグネリアンも一部のステージと一緒に歌わせていただいたのですが、これがきっかけとなって四大学OBがそろって演奏できる場ができたらしいと願っておりました。それが今回こうして実現することになり、本当に嬉しく思っております。改めてクローバークラブの皆さんの情熱に頭が下がる思いです。

ワグネリアンとしてこのステージに上がるメンバーは少ないのですが、きっと会場で聴いているワグネリアン達ももう一度ステージで歌いたいと思っているに違いありません。これで名古屋地区の東西四大学OBの一応の枠組みはできましたので、後は内容をいかに充実させるかが課題になるでしょう。

この演奏会を最初で最後にしないよう、ますます四大学のOBの結束を固めていこうではありませんか。

PROGRAM NOTE

指揮 稲熊 裕之
(東海クローバークラブ)



昭和54年、同志社大学文学部文化学科卒業、国文学を専攻する。

グリークラブ在籍中に指導を受けた故・福永陽一郎氏の影響で、大学卒業後編曲を手がけるようになり、現在も本業（郵便局長）のかたわら編曲を続けている。

創立後11年になる東海クローバークラブの創立時から指揮者を務めている。

高ナル調べニ何時カ心ノ悩ミモ解ケテ

稲熊 裕之

ハートビート・コンサートも回を重ねて3回目となりました。だいたい3回目というのは、「エイリアン3」しか「ランボー3」しか、まあ次はこんな展開かな、と先が読めてしまうものですが、このハートビート・コンサートに限っては、常に毎回初めてのコンサートを行うような気分になります。特に今回味わった産みの苦しみは、早稲田・慶応・関西学院・同志社の四大学〇日の合同ステージをどういうコンセプトで持つのかという、この一点にありました。今風の言葉を借りれば、「すったもんだがありまして」今日のコンサートのスタイルに落ち着いたわけです。

第一部は東海クローバーの単独ステージとしました。多田武彦さんの近作である「東京景物詩」を最初のステージに取り上げましたが、そのことを多田さんに手紙でお伝えしたところ、直接ご本人からお電話があり、演奏に当たってあれこれとご指導をいただきました。第2ステージ「アメリカの旅を終えて」は、昨年9月、同志社大学校祖新島襄の生誕150年を記念するアメリカ演奏旅行が行われ、大成功を収めるとともに大きな感動を持って帰ってまいりましたが、その時クローバークラブのステージに乗せた曲目をそのままこのステージに持ってきました。毎度のことながら、関西や東京から応援に駆け付けてくださるクローバーのみなさまには、ただただ胸を熱くするばかりです。

第二部は四大学の合同演奏です。名古屋稲門グリークラブ指揮者の向川原さんが非常に意欲的なプログラムを持ってこられました。案の定、音取りには苦勞させられましたが、曲の良さがメンバーにわかってくると、音楽になっていきますから、さすが、四連だと思えます。

最後のステージは、「ウィーンの調べ、ウィーンの香り。」7年前のことです。たいへんラッキーなことに、ウィーンのムジークフェラインで初めて聴いたニューイヤーコンサートを、最初で最後のカラヤンの指揮で聴くことができたのです。その時の感動といったらありません。コーラスでこういうことがやりたいと、以来ずっと思い続けてきました。

ステージの上のメンバーのお顔を見ていただければおわかりのように、それぞれの分野での中心的存在の方々ばかりです。練習に出ることもままならない時もしばしば。それでも今日こうして本番を迎えることができたみなさんの心境はおそらく同じだと思います。「高ナル調べニ何時カ心ノ悩ミモ解ケテ…」四連って、やっぱりすごい。

「東京景物詩」の頃の白秋

稲熊 裕之

前回のハートビート・コンサート2に続いて、同じ詩人の同じ詩集から選ばれた詩に同じ作曲者の多田武彦氏が曲を付けた合唱組曲を取り上げることとなった。とはいっても、平成2年に初演された多田氏の近作「東京景物詩」と前作「雪と花火」の間には30年以上の時の隔りがあり、組曲「東京景物詩」を構成する6編の詩のうち「カステラ」は詩集「思ひ出」に、「初秋の夜」は詩集「水墨集」にそれぞれ収められていることから、「雪と花火」の続編として「東京景物詩」が構想されたものではない。また、後者の方で詩集「東京景物詩」の中から用いられた詩も組曲「雪と花火」の4編の詩とはかなり趣を異にしている。

白秋が姦通罪に問われ、失意のどん底に落ちた話は前回のプログラム「『雪と花火』雑記」の中で述べた。明治45年7月のことである。その相手の女性は松下俊子といて、米国に留学し写真技術を学んだ新聞社のカメラマンを夫に持つ人妻であった。事の発端は明治43年9月に白秋が俊子の隣家に転居したことに始まる。

組曲「東京景物詩」に用いられている同名詩集からの4編を作詩された順に並び替えてみると、一つのライト・モチーフが浮かび上がってくる。「滑りつつ君のうれひはすすり泣けり」(八月のあひびき・43年8月)と詠ったこの時点ではまだ俊子と出会っていないが、不安や悲劇性をイメージさせるこの詩は、既に将来を予感していたのではないかと思えるほどである。「丁度誰かの為るように」(あらせいと・43年10月)という詩句の誰かとはもちろん俊子のことである。出会いから1か月、「よその子」の仕草にさえ俊子の面影を重ねている。

遊郭に遊んだ帰り、雪の中を千鳥足で歩いていても頭が冴えてくると、「見えぬあなたもふりしきる」(夜ふる雪・44年1月)雪が舞うように俊子のことが頭をかすめて行くのだ。そしてある冬の夜。俊子を前にして本当は至福の一時であるのに、越えてはならない一線がある。「男はまた手をのべてそを受けんとす」(冬の夜の物語・44年1月)これだけが唯一許されたざりざりの愛情表現なのである。

多田氏の曲は、若書きの「雪と花火」と違って淡々と、しかし着実にクライマックスに導くように書かれている。詩を書いた白秋は確かに20代であったが、その情感をわかって歌うことができるには、クローバークラブの年代になるまで待たなければならぬのかもしれない。

PROGRAM NOTE

「東京景物詩」

あらせいと、

人知れず袖に涙のかかるとき、
かかるとき、
ついで見馴れぬよその子が
あらせいと、うのたねを取る。
丁度誰かの為るやうに
ひとり泣いてはたねを取る。
あかあかと空に夕日の消ゆるとき、
植物園に消ゆるとき。

カステラ

カステラのふちの渋さよな、
かばいろの渋さよな、
粉のこぼれが手について、手についてね、
ほろほろとほろほろとたよりない眼が泣かるる。
ほんに何とせう、
赤い夕日にうしろ向いて
ひとり植ゑた石竹。

八月のあひびき

八月の傾斜面に
美しくしきの光はすすり泣けり。
こほろぎもすすり泣けり。
雑草の緑もともにすすり泣けり。

わがこころの傾斜面に、
滑りつつ君のうれひはすすり泣けり。
よろこびもすすり泣けり。
悪縁のふかき恐怖もすすり泣けり。

八月の傾斜面に、
美しくしきの光はすすり泣けり。

初秋の夜

月は十六夜
ほんの欠け初め、
稲妻だ、幽かな。

濡れて光るわづかの星、
綿雲のうす紫。
稲妻だ、幽かな。

絶えずまたとどろく海、
嵐の名残。
稲妻だ、幽かな。

月はいよいよ澄み、
揺れそよぐ斜丘の小竹、
稲妻だ、幽かな。

ああ、そして一面の虫の音、
初秋の露。
稲妻だ、幽かな。

冬の夜の物語

女はやはらかにうちうなづき、
男の物語のかたはしをだに聴き逃さじとするに似たり。
外面にはふる雪のなにごともなく、
水仙のバッチリとして匂へるに薄荷酒青く揺げり。

男は世にもまめやかに、心やさしくて、
かなしき女の身の上になにくれとなき温情を寄するに似たり。
すべて、みな、ひとときのいつはりとは知れど、
互みになつかしくよりそひて、
ふる雪の幽かなるけはひにも涙ぐむ。

女はやはらかにうちうなづき、
湯沸のおもひを傾けて熱き熱き珈琲を掻きたつれば、
男はまた手をのべてそを受けんとす。
あたたかき暖炉はしばし息をひそめ、
ふる雪のつかればほのかにも雨をさそひぬ。

遠き遠き漏電と夜の月光。

夜ふる雪

蛇目の傘にふる雪は
むらさきうすくふりしきる。

空を仰げば松の葉に
忍びがへしにふりしきる。

酒に酔うたる足もとの
薄い光にふりしきる。

拍子木をうつはね幕の
遠いところにふりしきる。

思ひなしかは知らねども
見えぬあなたもふりしきる。

河岸の夜ふけにふる雪は
蛇目の傘にふりしきる。

水の面にその陰影に
むらさき薄くふりしきる。

酒に酔うたる足もとの
弱い涙にふりしきる。

声もせぬ夜のくらやみを
ひとり通ればふりしきる。

思ひなしかはしらねども
こころ細かにふりしきる。

蛇目の傘にふる雪は
むらさき薄くふりしきる。

PROGRAM NOTE

指揮 向川原慎一

(名古屋稲門グリークラブ)

1949年、名古屋に生まれる。
1973年、早稲田大学第一政治
経済学部政治学科卒業。高校
時代から合唱に親しみ、早稲田
大学グリークラブではパート
リーダー、学生指揮者として活
躍。卒業後もいくつかの合唱団
を経て、現在名古屋稲門グリー
クラブ指揮者。



“三つの抒情”をめぐるコラージュ

- * 三善の音楽は、音楽以外の何ものでもない。音楽でしかないもの！造形美術でもなければ、詩でもないもの。そして自然そのものでもない。つくられた「美」そのもの。それは、ほとんど、神のめぐみの瞬間である。 (1972 福永陽一郎)
- * 私にとって、声とは、なによりも複数の混ざった女声だった。なかんずく、詩の聴覚体験に於いては、複数の女声が混ざることによって、そこから生身の人格が消え、かと言って斜や風の音でもない、抽象された女性の波動のようなものが、そのまま詩の響きとなって私の全身に浸み、私を共振させる。私が詩を享受するのは私の聴きとる音の生態を通じてだけだ。 (1986 三善 晃)

* 三善のように、自分が使う音素材を、ぎりぎりのところまで吟味して作品を書く作家の、完成された女声合唱曲を、男声用に編曲することは、冒険が過ぎるかも知れない。同志社グリークラブは、このところ、かつて無かったほど限定された人数でコーラスをしているわけだが、そこでだけ可能な、デリカシイとリリシズムの追求の場として、あえて、この磨きぬかれた音楽とぶつかってみることを、強行した。

(1972 福永陽一郎)

* 今も、風と浪の碧の闇の中に閉じ込められる私が私の裡に居る。その私は、今の私がもう決して、この三つの曲のような「夜想」を歌い得ないことを、時には責めるために、時には慰めるために、これらの詩句を歌う、やさしいひとらよ、たづねるな！と。

(1975 三善 晃)

* 夭逝した詩人達 (立原-24才没、中原-30才没) と30才台前の作曲家。この3人の若い天才による瑞々しいリリシズムの世界を前にして、私は禁断の実に誘われるイブのように激しくためらう。自らの資質、感性、理解力、表現力を疑い、この珠玉の名作をけがすことを恐れるからだ。しかし、それでも、あえてこれに触れようとするのは、どろどろした現実社会の波間に漂いつつ、零に回帰する虚しさを泳えながらも、“なにをおまへはして来たのか”という問いを受け止め続けている人達の力を信ずるからに他ならない。

(1994 向川原慎一)

或る風に寄せて

立原道造

おまへのことでいっばいだった 西風よ
たるんだ唄のうたひやまない 雨の晝に
とぎした窓のうすあかりに
さびしい思ひを噛みながら

おぼえてゐた をのきも 頭へも

あれは見知らないものたちだ……

夕ぐれごとに かがやいた方から吹いて来て
あれはもう たたまれて 心にかかつてある

おまへのうたった とほい調べだ――

誰がそれを引き出すのだらう 誰が
それを忘れるのだらう……さうして

夕ぐれが夜に変わるたび 雲は死に

そそがれて来るうすやみのなかに
おまへは 西風よ
みんななくしてしまつた と

北の海

中原中也

海にあるのは、

あれは人魚ではないのです。

海にあるのは、

あれは、浪ばかり。

曇った北海の空の下

浪はところどころ歯をむいて、

空を呪ってゐるのです。

いつはてるとも知れない呪。

海にあるのは、

あれは人魚ではないのです。

海にあるのは、

あれは、浪ばかり。

ふるさとの夜に寄す

立原道造

やさしいひとらよ たづねるな！

――なにをおまへはして来たかと 私に

やすみなく 忘れすてねばならない

そそぎこめ すべてを 夜に……

いまは 嘆きも 叫びも ささやきも

暗い碧の闇のなかに

私のためには 花となれ！

咲くやうに にはふやうに

この世の花のあるやうに

手を濡らした真白い雪の散るやうに――

忘れよ ひとよ……ただ！ しばし！

とほくあれ 限り知らない悲しみよ にくし

みよ……

ああ歸つて来た 私の横たはるほとりには

花のみ 白く咲いてあれ！

幼かった日のやうに

PROFILE

ソプラノ独唱

橋爪 圭子



愛知県立芸術大学卒業
名古屋市民会館新進演奏家紹介コンサート
オーディションで最優秀賞受賞
名古屋二期会のオペラ「フィガロの結婚」「かくや姫物語」「ヘンゼルとグレーテル」やニューイヤーパーラコンサートなどに数多く出演するほか、ドイツ歌曲や日本歌曲でのリサイタルを4回開催
名古屋二期会会員
アメリカの歌研究会会員
エトセトラ及びSei Vociメンバー
現在、同朋高校音楽科及び名古屋音楽学校講師

ピアノ

三ツ口 朱野



菊里高校音楽科、武蔵野音楽大学ピアノ科卒業
加藤けい子、坂井玲子、ペーター・ショイモシユの各氏に師事
ソロ、室内楽、伴奏等で活動を行っている。
近年、バロックに興味を持ち、チェンバロを渡邊順生氏に師事。管弦楽・宗教曲等の通奏低音奏者を務める。

ピアノ

鬼頭 久美子



明和高校音楽科、愛知県立芸術大学音楽学部
ピアノ科卒業、同大学第21回卒業演奏会に出演
1991年 電気文化会館にてジョイントリサイタルを聞く
1992年 ウィーン・マイスターコースにて室内楽をウィーン・シューベルト・トリオに師事
本年2月せとんエンゼルホールにてジョイントリサイタルを聞く
歌曲・器楽伴奏・室内楽を中心として活動を行っている。
現在、聖カピタニオ女子高校講師
ピアノを池谷るみ、白木宏子、大堀敦子、平井丈二郎、山崎冬樹各氏に師事

STRINGS

1st Vn. 小尾 佳正

名古屋芸術大学卒業 現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団に所属

2nd Vn. 中西 俊哉

京都市立芸術大学卒業 現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団に所属

Viola 小林 伊津子

愛知県立芸術大学卒業 現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団に所属

Violoncello 増岡 祐子

愛知県立芸術大学卒業 管弦楽、室内楽等で活動を行っている。

名古屋稲門グリークラブ

1990年、名古屋市及びその近郊に在住する、早稲田大学グリークラブOBにより結成され、翌91年には電気文化会館において第1回目のコンサートを開催している。現在、第2回目のコンサートに備え、レパートリー作りに練習を重ねている。

慶応ワグネル東海三田会

名古屋市及びその近郊に存在する、慶応ワグネルソサィエティー男声合唱団OBの組織である。また本格的な合唱活動を行ってはいないが、東京、大阪で2年に一度開催される東西四大学OB合唱連盟演奏会やそのほか東京のメンバーが中心になって行うコンサートには、名古屋から参加している。

新月会

関西学院グリークラブOBによる男声合唱団であるが、現在のところ名古屋では組織化されていない。現役の関西学院グリークラブは1年おきに名古屋で南山大学メルクウィアーと交歓演奏会を開催しているので、名古屋のOBも楽しみにしているはずである。

このコンサートを契機として、OBの組織化が進み、名古屋新月会の誕生にまで発展すれば幸いである。

SPECIAL THANKS TO;

司 会 朝比 久雄

同志社グリークラブ昭和36年卒OB。中部日本放送のアナウンサーを経て、現在同岐阜支社長。

振 付 豊田 公子

同志社大学文学部卒 豊田公子ジャズダンススタジオ、豊田公子ジャズダンスカンパニーを主宰。LALAPIA21、中日文化センター等多数の講師を務める。

舞 踊 豊田公子ジャズダンスカンパニー

舞台監督 林田 慎也

同志社グリークラブ昭和38年卒OB。かつての高視聴率番組「ウィークエンダー」の取材を担当されていた。現在林田企画株式会社社長。

ON STAGE MEMBERS

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 東海クローバークラブ

TOP TENOR

氏名	卒年	地域
赤井 和夫	S30	関西
佐々木 正義	S31	東海
芳崎 栄治	S34	関西
朝比 久雄	S36	東海
野上 幸市	S40	東海
池田 研一	S42	東海
片田 保彦	S50	東海
鈴木 恒一	S56	関西
川口 晃司	H3	関西
岩田 正之	H3	東海
黒沼 貴博	H3	東海

SECONDTENOR

氏名	卒年	地域
山中 和三郎	S25	関西
都木 直文	S27	関西
斎藤 勲	S28	関西
森川 禎一	S28	東京
村上 恵一	S33	関西
寸田 達	S36	東京
田辺 博孝	S37	関西
岩木 六馬	S39	東京
近藤 恭司	S42	東海
魚谷 庄司	S43	東京
稲垣 昌裕	S52	東京

BARITON

氏名	卒年	地域
富永 光雄	S26	関西
藤戸 武	S27	関西
西岡 行雄	S27	東海
中川 健一	S28	東京
妹尾 光郎	S28	東京
吉川 悟一郎	S29	東海
門田 耕一	S30	関西
堀 昌弘	S30	関西
野村 忠	S31	関西
山岡 義明	S34	関西
大友 慶介	S34	東京
眞嶋 規義	S35	東海
森本 潔	S36	東京
横田 義	S36	関西
村田 由高	S36	関西
阿部 光夫	S37	東京
山内 康次	S38	関西
金森 久宙	S53	東海
灰塚 弘	S61	関西

BASS

氏名	卒年	地域
長島 俊司	S24	関西
宮地 正彦	S25	関西
土肥 通夫	S27	関西
野村 秀治	S29	東京
黒坂 洋平	S29	東京
市島 章三	S34	東京
松村 時男	S35	関西
田中 惺	S37	東京
石田 文博	S38	東京
舘 和道	S42	東海
科野 輝蔵	S42	東海
獅子倉 重人	S53	東京
稲熊 裕之	S53	東海
矢ヶ崎 一之	S54	東京
鋒山 琢磨	S59	関西
上谷 恵央	S61	東海

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 名古屋稲門グリークラブ

TOP TENOR

氏名
高橋 克
向川原 慎一
小澤 直樹

SECONDTENOR

氏名
黒田 康男
石井 清
本多 一義

BARITON

氏名
伊東 哲也
塚本 松市

BASS

氏名
久保田 潔
井ノ口 貴敏
浅井 良之

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 慶応ワグネル東海三田会

TOP TENOR

氏名
柴田 道昭

SECONDTENOR

氏名
三ツ口 勝久
成田 正人

BARITON

氏名
宮崎 嘉夫

BASS

氏名

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 関西学院グリークラブOB

TOP TENOR

氏名

SECONDTENOR

氏名
洲崎 雅夫

BARITON

氏名
木葉 晴之

BASS

氏名
永合 幹弥

✦ TOKAI CLOVER CLUB HEARTBEAT CONCERT 3

◆同志社グリークラブ創立90周年記念

東海クローバークラブ・ハートビート・コンサート3

高鳴ル調べニ何時カ、心ノ悩ミモ解ケテ...



平成6年5月15日(日) 13:45開演
名古屋市芸術創造センターホール
¥1,500 全席自由
司会/朝比久雄(中部日本放送)

主催/東海クローバークラブ
共催/早稲田・慶応・関西学院・同志社(東西四大学)OB合唱連盟
後援/同志社校友会愛知支部



男声合唱組曲

「東京景物詩」

北原白秋 作詩
多田武彦 作曲
指揮 稲熊裕之
合唱 東海クローバークラブ



「アメリカの旅を終えて」

最上川舟唄・おてもやん
ROLLING HOME etc.
指揮 稲熊裕之
合唱 東海クローバークラブ



男声合唱のための

「三つの抒情」

立原道造 作詩
中原中也 作詩
三善晃 作曲
福永陽一郎 編曲
指揮 向川原慎一
ピアノ ミッコ朱野
合唱 名古屋稲門グリークラブ
慶応ワグネルOB東海三田会
関西学院グリークラブOB
東海クローバークラブ



「ウィーンのしらべ、ウィーンのかおり。」

トリッチ・トラッチ・ポルカ オペレッタ「メリーウイドウ」セレクション ラデッキー行進曲

J.シュトラウス・F.レハール 作曲
福永陽一郎・北村協一 ほか 編曲
独唱 橋爪圭子(名古屋二期会)
指揮 稲熊裕之
ピアノ 鬼頭久美子
ストリングス ハートビート四重奏団
合唱 名古屋稲門グリークラブ
慶応ワグネルOB東海三田会
関西学院グリークラブOB
東海クローバークラブ